ＮＨＫ高校講座『簿記』の見どころ

横浜市立横浜商業高等学校再任用教諭　粕谷　和生

はじめに

平成28年４月からＮＨＫ高校講座「簿記」の放送がＥテレで始まりました。この番組は実教出版の『新簿記』に沿って毎年20回放送されます。

本講座の内容は，簿記の基礎，取引の記帳，決算整理を含む決算，そして総まとめです。なかでも簿記の基礎は，「基礎」とはいうものの，初学者には難解な概念が多く，指導しにくいところです。そこで本講座では９回分を充てています。

また，すべての回において映像の利点をふんだんに用いて具体的に見せるようにしています。以下，出演者と各回の見どころを紹介します。

出演者紹介

ＭＣは宮崎県立延岡商業高校出身の酒井瞳さんです。全商簿記検定１級を高校時代に取得しており，番組では「さかっち」の愛称で，抜群の進行能力を発揮しています。酒井さんの紹介は，じっきょう商業教育資料104号に載っています。

簿記インストラクターは，公認会計士の渡部崇文さん（わたびー先生）です。穏やかな人柄で台本どおりに講師役を演じていただき，収録は順調に進みました。

生徒役は石井祥伍君と松田莉奈さんです。二人とも都内の私立高校生で，簿記を勉強したことはありません。監修は私，粕谷が担当しました。各回の最後のコーナー「簿記のキモ」にも出ます。

第１回　はじめよう簿記！

― 資産・負債・純資産 ―

第１回の見どころは，簿記の五要素を「５つのグループ」に言い換え，各要素に属する勘定科目（項目）を「メンバー」と言い換えて易しく展開しているところです。初回のため，できるだけ専門用語は使わず，生徒の体験の中から容易に理解できるように工夫しています。

とはいえ，債権と債務については形がなく，その存在を頭の中で認識するしかありません。そこで模型を使って取引を見せて，売掛金や買掛金などが映像の中にあたかも存在しているかのような演出をしています。

また，第１回の後半では，純資産を「資本」というと明言し，これ以降，最終回まで「資本」という語を用いて従来どおりの学習指導ができるようにしています。純資産を用いると簿記はもちろん，財務会計Ⅰ・Ⅱの指導も不便になります。

第２回　財産はいくらある？ ― 貸借対照表 ―

第２回の見どころは，新簿記p18の例３を用いた演習です。経営活動（取引）によって資産・負債・資本の金額が増減することを体験によって学びます。演習の取引は，すべて模型を使って具体的に見せますので容易に理解できます。

なお，この演習に入る前にわたびー先生が「資本グループには，資本金と呼ばれるメンバーだけが所属していて，現在，ソロ活動中です」と言っています。これは株式会社形態では，株主資本の区分（資本グループ）のメンバーが増えることを念頭に置いた解説です。

番組の後半で，財産法（期末資本－期首資本＝当期純利益）を解説します。その中に「当期純利益は簡単に言うと資本が増えた分」というセリフが出てきます。生徒に注目させてください。

第３回　もうかるとは？ ― 収益・費用 ―

第３回も前回と同じ例題を用いての演習です。前回の演習では，資産・負債・資本の増減に注目しましたが，今回は資本の増減から収益または費用を認識するところがポイントです。

前回と同じワークシートを用いて，取引ごとに資本が増加したか，減少したかを生徒二人が答えます。増加している場合は収益の勘定科目を，減少している場合は費用の勘定科目をわたびー先生が教えてくれます。

もう一つの見どころは，財産法と比較して損益法を説明する場面です。ギルマンの円筒形の水槽を用いての演出ですが，黒板で説明するよりも短い時間で済ませています。

第４回　勘定って何？ ― 取引と勘定 ―

第２回と３回で取引によって簿記の五要素が変動することを学びました。そして第４回では，さかっち店長が「そうなると取引のたびに貸借対照表と損益計算書を書き換えるのが大変」と言います。これを受けてわたびー先生が，「貸借対照表と損益計算書に記載されている項目をバラして勘定を作り，取引によって生じた変動額は，変動のあった勘定だけに記録するのです」と言っています。

第４回の見どころは，まさにここのやりとりです。教科書や各種簿記書では，勘定については「記録・計算の区分単位」などと定義されることが多く，イマイチわかりません。そこを番組では鮮やかなタッチで勘定の意味を説明しています。また，勘定の形はＴ字形として勘定口座を位置づけ，そこに付けた名前が勘定科目と説明しています。

２つ目の見どころは取引の分解の演習です。ここでも各取引について，模型を使って具体的に説明しますので，容易に分解のコツがつかめます。

第５回　簿記は仕訳が命 ― 仕訳と転記 ―

第５回の見どころは，何といっても転記マシーンさかっち１号です。仕訳の借方に登場したものは，勘定口座の借方に転記し，仕訳の貸方に登場したものは，勘定口座の貸方に転記するというルールを，転記マシーンを使って説明しています。わたびー先生が「こんな装置必要ないような・・・」と言いかけていますが，さかっち１号を使ったわざとらしい演出が見ものです。

そのほか転記の際には，仕訳の相手勘定科目を書くことやそれが複数あるときには諸口と書くことなども演習の中で丁寧に説明しています。

第６回　決算前にチェック！ ― 試算表と精算表 ―

第６回の見どころも，マシーンを使った場面です。今回のマシーンさかっち２号は，ただの掃除機ですが，合計試算表と残高試算表の作成方法をとてもわかりやすく見せています。

掃除機を使った説明は，新簿記ｐ53・54にありますが，映像にするとより分かり易くなります。また，さかっち２号におまじないをかける酒井さんの熱演も見どころです。

番組の後半では，精算表の作成方法を学習します。石井君と松田さんが生徒の目線でじっくりと進めます。

第７回　当期はもうかった？ ― 決算１ ―

第７回のテーマは決算ですが，「振り替え」を中心に放送します。第７回の見どころは，ずばり振替マシーンさかっち３号です。さかっち３号は，ただのポンプですが，このポンプによってコップＡからコップＢにジュースが「移動」します。これは，振り替えが勘定から勘定への金額の「移動」ということを強く印象づけるための演出です。

また，松田さんが群馬県立前橋商業高校簿記部を訪問します。部員のみなさんの熱心な活動を見てください。

第８回　決算をやってみよう ― 決算２ ―

第８回は総勘定元帳の締め切り手続きを一気に行います。番組の前半は第７回で学んだ振り替えの復習をしながら進みます。この回の見どころは，各勘定の締め切りです。わたびー先生が，解説をしながら実際に締め切りをします。教室の生徒には，「ただ真似をするだけ」と伝えましょう。

なお，この回は学習メモを事前にダウンロードして，決算手続きを学習メモ用紙に記入しながら学べるように準備することが必要です。

第９回　簿記マスター演習 ― 簿記一巡の手続き ―

第９回は第１回から第８回までの総まとめ（仕

訳 → 勘定への転記 → 試算表 → 決算）を演習形式で行います。

番組の全体が演習ですが，さかっち店長がタイムリーに出してくれる道標（重要ポイント）が11個もあり，簿記の山の山頂までの登山道を迷うことなく進めます。また，生徒二人が記帳している間に流れるナレーションも，痒い所へ手が届くといった感じで学習効果がアップします。

第10回　現金はお金だけじゃない ― 現金取引 ―

第10回からは各種取引の記帳に入ります。この回の見どころは，まず，生徒がイメージしにくい実際有高の意味を金庫に入っているお金に見立てているところです。

また，かっこよく小切手を使いたいさかっち店長が，実際に銀行に行って当座預金口座を開設する場面も見どころです。ふつうはこのようなロケは難しいのですが，簿記教育の発展のために横浜銀行が協力してくれました。窓口でさかっち店長に対応してくれる女性は，役者ではなく横浜銀行の人です。

第11回　残高が少ない時でも ― 当座借越 ―

第11回の見どころは，前回に続いて，さかっち店長が実際に銀行に行って当座借越契約を結ぶ場面です。これまで教科書の上でしか知らなかった当座借越は，実際には審査があり，企業の信用が大事であるなど，その実際がよく理解できると思います。

また，当座借越の仕組みを理解するためのさかっち4号も見事です。取引によって，当座借越の発生（増加）と消滅（減少）の仕組みがとてもよく理解できるように作られています。

第12回　仕入れて売る ― 商品売買の取引 ―

第12回の見どころは，商品売買取引を，模型を使って具体的に示している場面です。しかも，返品や仕入諸掛，発送費など重要な論点はすべて入っています。

また，商品有高帳の学習に登場するさかっち5号も優れものです。先入先出法はトコロテンの突き出し器がヒントになっています。先入先出法を直接，体験できます。移動平均法は単価を平均することを強調するため，酒井さんに手品を熱演してもらいました。思わず吹き出してしまいます。

第13回　支払いを先にのばせる ― 手形の取引 ―

第13回の内容は，約束手形・為替手形・裏書譲渡・手形割引・手形記入帳など盛りだくさんです。これだけ多くの内容を20分の放送で可能にしているのは，わたびー先生がイラストボードを用いて手形の債権・債務に着目して視覚にうったえて解説しているからです。

したがって，第13回の見どころは，ボリュームのある内容をコンパクトにまとめて演出している番組全体です。

第14回　これも資産？ ― 有価証券・固定資産 ―

教科書においては，２つの章で扱う有価証券と固定資産を，第14回では前半と後半に分けて一回で放送します。

見どころは，取得原価および帳簿価額の定義を短い時間内で漏れなく説明している点です。また，固定資産の例として自転車が登場することは他ではありませんが，これも新鮮に感じます。

第15回　まだある勘定科目
― その他の債権・債務 ―

第15回は，債権と債務を表す多くの勘定科目を学びます。この回では，さかっち店長が言っているように「取引の中にどんな債権と債務が発生しているかを見抜くことが大切」です。そのために模型を使って具体的に取引を見せて，明瞭に債権・債務がわかるようにしています。

特に，前払金と前受金はどんな債権・債務なのかが理解しづらいので，ここは視聴者の注意を引きながら丁寧に説明しています。

第16回　資本は店の元手 ― 個人企業の資本 ―

第16回では，番組全体を通して多くの学習項目がとてもスムーズに進みます。さらに，さかっち6号による引出金勘定の説明も的確です。資本金勘定の借方を剥がして，引出金勘定を誕生させるという単純な演出ですが，単純なるがゆえにストレートに理解できます。

また，本講座の第1回で純資産ではなく「資本」を使うと宣言しましたので，元手としての資

本概念を基礎として，この回の説明がきわめて明確に展開されています。

第 17 回　決算レベルアップ！ ― 決算整理 ―

第 17 回の決算整理は，その定義や必要性など教えにくい分野ですが，番組の初めから最後まで一気に進んでいきます。特に，決算整理をなぜ行うのかについて，「勘定残高が期末の金額として適正額を示すようにするため」に留意して出演者四人の面白いやりとりを見てください。

また，この回はさかっち７号・８号の２つのマシーンが登場します。子供騙しのようなものですが，これをテレビでやると効果抜群です。

第 18 回　決算整理欄のある精算表 ― 8 桁精算表 ―

第 18 回では，前回の決算整理の復習をしつつ，８桁精算表の作成方法を学びます。作成手順が１から７までありますが，一つひとつ着実に進みますので容易にマスターできます。また，残高試算表の金額を，整理記入欄を通過して損益計算書または貸借対照表にスライドさせる場面では，各欄の借方と貸方の金額を色分けしています。これで金額を足すのか引くのかが，はっきり分かります。テレビならではの効果です。

第 19 回　簿記マスターへの道 ― PART 1 ―

第 19 回は，これまでに学んだことの復習です。教室で使用する簿記の問題集とは，一味違ったクイズやゲームに仕立てています。また，第 19 回と 20 回は，生徒役の二人には問題と答えを一切教えていません。ガチで取り組む二人の姿が一番の見どころです。

松田さんは収録直前まで，これまでのすべての台本を見て復習していました。その甲斐あって「勘定科目を当てろ」では，頑張っています。

第 20 回　簿記マスターへの道 ― PART 2 ―

いよいよ最終回です。問題のレベルは前回よりも高くしています。番組初めの「簿記用語を当てろ」では，ルーレットを使った後に，出される問題が決まりますので，事前にどの問題についてセリフを言えばよいのか，わかりません。酒井さんが問題を読み上げて生徒が答えるまでの短時間でフロアディレクターは，解説のカンペをわたびー先生に見せています。その動きはもちろん映像には出ませんが，見事なものでした。

この回は最終回ですので，最後に出演者全員によるひと言コーナーがあります。私が生徒役の二人に対して「簿記は誰のためにあるのでしょう？勉強を続けて，その答えを見つけてください」と言っています。全国の簿記を学ぶ高校生にも考えてほしいテーマです。

本講座の活用

ＮＨＫ高校講座は，通信制の高校生を対象としていますが，本稿では全日制および定時制高校において活用する場合のポイントを３つ挙げます。

(1) 通常の授業の補完として活用する。

(2) 学習メモで番組の内容を予習しておく。

(3) 視聴後にワークシートなどでまとめる。

上記 (1) は，先生方による通常の授業が最も大切という意味です。また，通常の授業を行った後に本講座を使うのが，最も学習効果が上がるという意味でもあります。

毎回 20 分の中に学習内容をギュッと押し込んでいますので，番組の進行は当然に早くなります。教室なら生徒の様子を見て，繰り返したり，ゆっくりしたりなどができますが，テレビではそれができません。したがって，ポイント (2) によって，番組がどんな展開になるのかを予習しておくことが大切です。また，番組に出る例題は，すべて学習メモに載っていますので，放送を見ながら答えを確認すると学習効果が上がります。

ポイント (3) は，あまり必要ないかもしれませんが，番組を見ない生徒をつくらないようにするためのものです。

なお，平成 29 年度の本講座の放送は夏期講座 (2017 年８月７日～ 18 日)，春期講座（翌年３月初旬・中旬）の予定です。詳しくはＮＨＫ高校講座のホームページに掲載されます。